

提 案 概 要

実施期日	7月29日(火)【午後】
部会名	小学校 特別活動部会

1 提案テーマ 『異年齢交流を行う集団活動の活性化のための学級活動での取り組み』

2 単元(題材) カッコイイ上級生になろう

3 学年 第4学年

4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 各内容に即した集団生活の在り方や望ましい人間関係の育成

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第6章 特別活動 第2 各活動・学校行事の目標及び内容〔学級活動〕 2 内容

〔共通事項〕 (1) 学級や学校の生活づくり ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全 ウ 望ましい人間関係の形成

6 実践に向けての課題意識

本校では、異年齢集団活動を「心を育てる」ための取組の一つとしてとらえ、様々な活動を年間計画に位置づけて実施している。その一つに「たてわりグループ活動」がある。これは、17名～18名程度の全学年の児童で構成したグループで、6月～2月の間に7回の活動を行うものである。

4年生の児童にとって、たてわりグループ内での立ち位置のとり方は難しい。低・高学年という分類では上学年の仲間に入るものの、同時に高学年の中では一番下の学年となる。異年齢集団活動において高学年に期待されるのは、リーダーシップを発揮することや、思いやりの心をもって下学年の子どもたちに接することである。しかし、4年生の児童をただ参加させるだけだと、リーダーでもない、世話をされる側でもない中途半端の存在になりがちで、何をすればいいのかわからないまま時間を過ごしてしまい、ともすれば「たてわりグループ活動はつまらない」ということにもなりかねない。

そこで、サブリーダーとしての自覚を高めるために、4年生で学年として学級活動や学年活動に取り組んでみることにした。6年生がリーダーとして活躍する姿に注目することからスタートし、真似をしてみたり、どうやったらリーダーを助けることになるのかを考えてみたり、実際に行動してみたりと、たてわりグループ内で積極的に活動する姿を期待したい。

7 実践の概要

- ① これまでのたてわりグループ活動への関わり方を振り返ろう(学年集会→アンケート→実態把握)
- ② リーダーに密着！インタビューをしよう
- ③ 自分たちの力でたてわりグループ活動を盛り上げよう(下学年への積極的な声かけ、グループ活動内でのリーダーの動きを注視 → アンケート → 4年生の児童間での共有)

8 成果と課題

- 学級活動での取組により、たてわりグループ活動に目的意識をもって参加する態度が育成され、さらに児童会活動における異年齢集団による自治的な実践活動を活発にすることにもつながった。
- 活動の振り返りの場面での話し合い活動を充実させたことで、学級内やたてわりグループ内で望ましい人間関係を築こうとする態度が育成された。
- ◇ 活動の過程において、一人ひとりの児童の評価と共に集団の発達や変容についても評価し、指導の工夫改善につなげることの検証については今後の課題として残っている。

9 予想される協議の柱

- ・ 異年齢集団による活動の効果的な展開
上学年へのあこがれをはぐくみ、下学年への思いやりや高学年としてのリーダーシップを育てること
- ・ 特別活動における言語活動の充実
活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること